

ウエルシアホールディングス株式会社

2025 年 2 月期第 1 四半期 決算説明会 質疑応答（要旨）

2024 年 7 月 8 日

【2025 年 2 月期第 1 四半期業績】

Q：売上高、粗利共に計画対比で厳しい進捗となっている。見通しは？

A：粗利率は前年対比でもダウンしており、客数対策を優先させていることが要因の一つ。前年秋ごろから客数が前年を割っており、食品の品揃えや販促強化を優先させている。施策効果でご来店頂いたお客様に対するカウンセリングや PB 販売等で、売上高、粗利改善につなげていく。

Q：第 1 四半期で営業利益未達。今後ビハインドをどうやって取り戻していくのか。

A：現在取り組んでいる施策を着実に実行していく。

特に部分改装による H&BC の品揃え強化は、実験店舗では一般化粧品の売上高が 5 %程度アップした店舗もある。スピードをもって実施していきたい。

【中期経営計画】

Q：中期経営計画との差が大きくなっている。計画修正せず、何年か遅らせて達成したいという考えか。また、計画差の要因は、たばこ販売終了と WAON POINT サービス導入の影響か？

A：厳しい進捗状況と認識しているが、現段階で計画修正はしていない。

たばこ販売終了は計画に織り込み済。WAON POINT 導入、2 期連続の大幅賃上げは計画外。

【新経営体制】

Q：体制が若い世代となった。注力点は？

A：現状考えているのは、出店、改装、ポイントカードや ID-POS データの活用、店舗の生産性。その他の取組みも含めて第 2 四半期の決算説明会では説明していきたい。

Q：新体制となりスピード感をもって変化していくという説明があった。どの程度のスピード感で舵取りを行っていくのか？

A：今期取組みを進める部分改装による H&BC の品揃え強化は、実施した店舗で数字が上がっている。什器の変更が発生するため業者を入れての対応となるが、8 月位までに実施していきたい。徐々に部分改装の実施店舗が増えていく為、8 月 9 月あたりから効果が出てくると想定。

Q：桐澤新社長のこれまで経験と、選任された理由、また今後の舵取りについて。

A：商品関連の経験が長く、営業も支社長として3年ほど経験している。

選任理由としては、スピード感をもって世の中の変化に対応していけるという期待もあると認識。社内役員体制も50歳前後に変わった。組織としても、スピード感をもった変化対応を期待されていると考える。

【WAON POINT 導入、たばこ販売終了の影響】

Q：WAON POINT の導入が業績の足を引っ張っている様に見える。提示率 UP のタイミングや、蓄積した ID データの活用および効果刈り取りの時期は？

A：現状の WAON POINT 提示率は約 50%。8 月までに提示率 60%、今期中に 70%まで上げていこうと取組みを進めている。

効果の刈り取り、データ活用は、以前の V ポイントと同様に提示率が 70%程度になったときと考えている。

Q：WAON POINT 提示率の今期目標 70%、手応えは？

A：店舗での取組みの成功例も出ており、水平展開していく。

また、下期から順次 POS レジを入れ替えるので、レジ処理のスピードや操作性も向上し、お客様、店舗側ともにレジでの負担が軽減される。追い風としたい。

Q：たばこ販売終了とポイントサービス変更で、短期的にネガティブな影響を受けていると思う。一方で、良い変化はあったのか。

A：非喫煙者の方から、たばこ販売終了にご賛同のお声もいただいている。

支持を更に得られるように、当社の健康シフトのアピールが必要。

ポイントサービス変更については、カード会員募集の人員派遣などイオングループからの協力もある。イオングループ内での相互送客など活性化できればと考えている。

Q：たばこ販売終了やポイントサービス変更のネガティブな影響は、ウエルシア薬局だけでなく他の子会社でも起こっているのではないか。

A：ウエルシア薬局だけでなく他の子会社でも同様の影響が出ていると認識。

たばこ販売終了は、グループの取組みであり、状況は同じ。

WAON POINT は、イオンがある地域などでは関与率が高いなど地域差もある。

【出店・改装】

Q：出店、改装の計画未達の要因は？

A：出店については大きな要因はなく、計画通り出店していきたいと考えている。

改装は、売場変更の取組みの中で、レイアウトなど見直しの影響が出ている。

年間では当初の計画通りに改装実施見込み。

【資本業務提携・経営統合】

Q：社長から見たツルハ HD との統合シナジーは？

今後のウエルシアを変えていくという部分では、統合を前にすると変更しづらい事もあるのではないかと。

A：まだ決まったものがない中で言えることが少ないが、極力早い段階で統合を実現していきたいと考えている。

ウエルシアを変えていくという部分では、躊躇することなく、変革は続けていく。

【イオン九州】

Q：イオン九州との取組みの手応えは？

A：イオン九州店舗の業態転換と新規物件での出店を進めており、開発部隊も増員している。この業態に必要な売場面積と食品、H&BC の売場比率もわかってきた。

人口減少の進む地域等で戦うフォーマットとして武器になると考えており、引き続き取り組んでいく。

以上